

各 位

上場会社名 日本フォームサービス株式会社
 代表者 取締役社長 山下 岳英
 (コード番号 7869)
 問合せ先責任者 取締役総務部長兼介護事業部担当 大海原 秀人
 (TEL 03-3636-0011)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成23年11月11日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成24年9月期通期連結業績予想数値の修正(平成23年10月1日～平成24年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,000	105	140	75	18.82
今回修正予想(B)	2,922	48	87	40	10.04
増減額(B-A)	△77	△56	△52	△34	
増減率(%)	△2.6	△53.6	△37.4	△46.7	
(ご参考)前期実績 (平成23年9月期)	2,439	36	74	19	4.79

平成24年9月期通期個別業績予想数値の修正(平成23年10月1日～平成24年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,000	104	138	74	18.57
今回修正予想(B)	2,914	46	86	40	10.06
増減額(B-A)	△85	△57	△51	△33	
増減率(%)	△2.8	△54.8	△37.6	△45.8	
(ご参考)前期実績 (平成23年9月期)	2,436	35	73	19	4.91

修正の理由

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の影響により依然厳しい状況にある中で、復興需要を背景に緩やかに景気回復の兆しがみられるものの、円高の長期化や欧州の財政危機問題、中国の経済成長の減速など懸念材料も多く、景気は先行き不透明感が残る状況で推移いたしました。

このような状況の下、上半期は函物及び機械設備関連事業において、従来のラックおよびアーム関連製品は、前年度から繰り越された官公庁からの受注や、さらには新製品である太陽光関連製品の拡販に注力し順調に推移いたしました。しかし、下半期においては当初予定しておりました太陽光関連製品の受注に対し、全社で拡販に動いたものの次期(10月以降)への繰越しが非常に多くなったことや、社内に取り込める製品の受注が減少した結果となっております。しかしながら、仕入商品による売上により当初予定の売上高は確保いたしました。

利益面においては業務の効率化による収益性向上や、諸経費のコスト削減に取り組んでまいりました。しかし、材料調達や価格低減に対する当社の対応が図れなかったことや、生産量が低下した結果、売上総利益の確保が厳しい状況となりました。

以上のことから、函物及び機械設備関連事業の売上高は22億3千5百万円(当初予想比 3.2%減)、経常利益は5千9百万円(当初予想比 47.1%減)となる見込みにより、非常に厳しい状況にて推移いたしました。

一方、第二の柱である介護関連事業におきましては、各介護事業者に対して法令順守を徹底した経営がもとめられるとともに、介護福祉士等有資格者の人材確保が依然として困難な状況が続くなど、厳しい経営環境となっております。

また、平成24年4月実施の「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律」が可決・成立し、「地域包括ケアシステム」の実現に向けて、定期巡回・随時対応型訪問介護看護や複合型サービス、介護予防・日常生活支援サービス等が新たに創設されることとなりました。

このような状況の下、在宅介護サービスにおきましては、通所介護サービスは減少したものの、訪問入浴介護等の顧客数の増加や利用者単価が上昇したこと、さらにはリハビリの専門家がいる「訪問看護ステーション」が順調に新規顧客を確保することができました。

また、地域密着型介護サービスにおける認知証対応型共同生活介護につきましては、居室稼働率が上昇し常時満床に近い状態を維持することが出来ました。さらに、小規模多機能型居宅介護で地域ニーズの上昇により新規顧客を獲得することができ、大幅に売上高を確保することができました。

以上の結果、介護関連事業(在宅介護サービス及び地域密着型介護サービス)における売上高は6億8千6百万円(当初予想比 0.5%減)となり、利益面に関しては、現サービスの充実および新規事業を見据えた人材確保や設備投資を行った結果、当初の目標どおり経常利益は2千8百万円(当初予想比 1.4%増)を確保することができました。

上記の理由により、介護関連事業において当初の予想見込みの利益を確保することができたものの、函物及び機械設備関連事業において当初予定の業績を大きく下回る結果になったことにより、売上高および利益面に関して上記のとおり、減収・減益となりましたので、業績予想を修正いたします。

また、平成24年9月期個別業績予想の修正等につきましても、連結業績予想の修正要因と同じ要因により、売上高および利益面において前回の業績予想を下回る見込みとなりましたので修正いたします。

(注)上記の予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上